

耕畜連携による飼料生産技術

キーワード 耕畜連携, 飼料用イネ, 子実用トウモロコシ

12

つくる責任
つかう責任

15

種の豊かさも
守ろう

■ 研究概要

わが国の畜産経営は輸入飼料への依存度が高く、飼料価格は海外の生産地の豊凶作、為替変動、海上運賃などに大きく影響されます。特に濃厚飼料の中で大宗を占めるトウモロコシ子実は、年間で約1,100万トンが輸入されており、極端な輸入飼料への依存から脱却し、足腰の強い畜産経営への転換を図ることは極めて重要です。

耕畜連携による飼料生産

耕種農家との連携によって、水田の機能を維持したまま、飼料自給率の向上を図ることのできるホールクロップサイレージ用イネ（WCS用イネ）、国産穀類としての飼料用米、さらに、近年になって注目を集めている子実用トウモロコシについて、その栽培管理から収穫調製、流通技術に至るまでの研究を行っています。また、これらの地域産飼料資源をフルに活用した畜産物を生産し、その家畜排泄物を堆肥として活用する仕組みを構築することで、水田や畑輪作体系における資源循環型農業を目指した研究を行っています。



WCS用イネの収穫



子実用トウモロコシの収穫



■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・ 子実用トウモロコシの生産
- ・ 地域飼料資源を活用した畜産物の生産

浦川 修司 教授 URAKAWA, Shuji

専門分野：飼料生産学

E-mail : urakawa3513@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

